

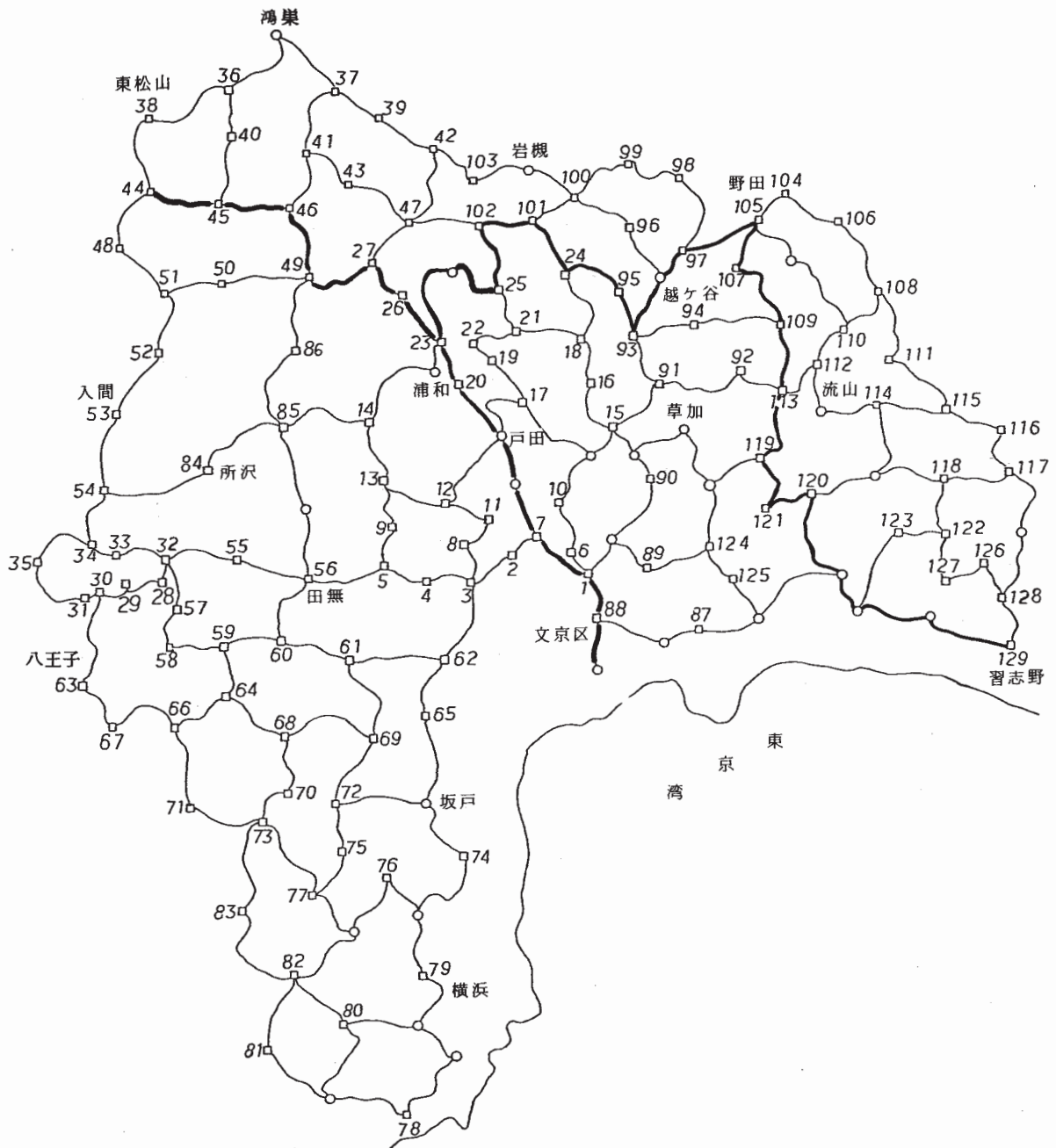
3 - 9 首都圏精密基盤傾動測量結果

Survey Result of Precise Leveling in the Metropolitan Area

国土地理院地殻調査部
Crustal Dynamics Department, Geographical Survey Institute

首都圏精密基盤傾動測量は、厚い第四紀層で覆われた首都圏平野部において、地表付近の局地的影響をできるだけ避けて地殻の上下変動を検出しようという目的のため、(1)国及び地方自治体の深井戸・観測井に取付け水準をすること、(2)観測井のないところは5～15m(8m前後が多い)のパイルを打ちこんだ基準点にすること、の方針で実施する測量である。

第1図に網図を示す。首都圏中心部はパイルを打ち込む場所がなく空白となっている。図中太線は年度の異なる観測値を統一年度に化成するために原則として毎年水準測量を実施する路線である。観測は、1976～7年に東西に分ける中央の太線西側、78年に同東側を実施した。その後79年同西側、80年に同東側を実施した。この2年半にわたる1980.5 - 1978.0の変動量は第2図に示される。図中所沢周辺は、79年に1回しか測量していないので変動量は得られていない。結果は、「関東地域地盤沈下等量線図」の最近2年間の変動とおおむねあっており、浦和・大宮付近、越谷付近で沈下が大きいが荒川・立川両断層をはさんだ変動は明らかでない。



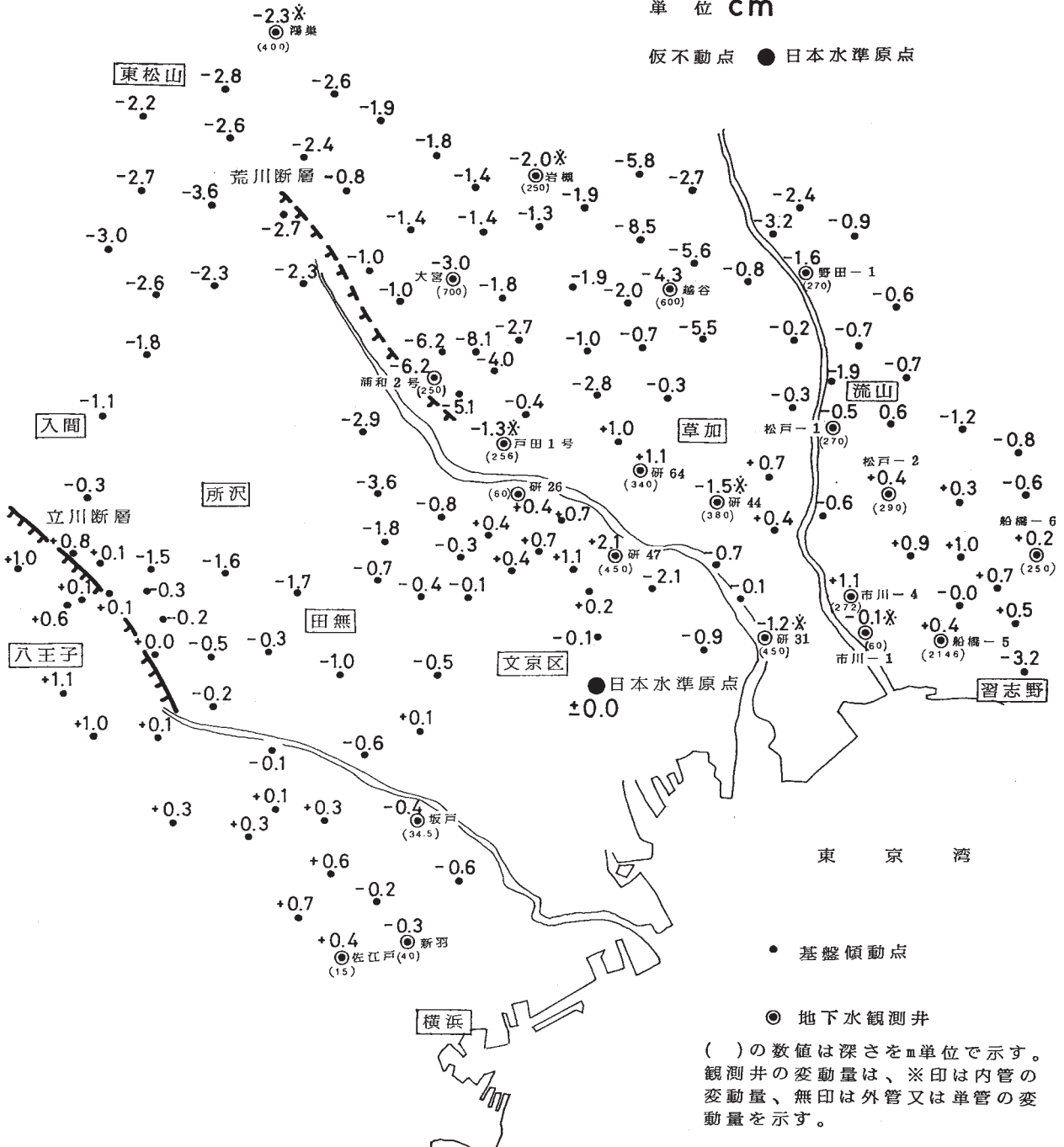
第1図 首都圏精密基盤傾動測量網図

Fig. 1 Network of precise leveling in the metropolitan area.

1980.5 - 1978.0

単位 cm

仮不動点 ● 日本水準原点



観測は、1回目が1976年11月～1979年1月、2回目は1979年11月～1980年12月にかけて実施されているが、1回目2回目の観測値から内挿外挿により、1978.0年と1980.5年に統一して計算した。

第2図 首都圏精密基盤傾動測量結果

Fig. 2 Survey result of precise leveling in the metropolitan area.